

2019.8.3-4

FUJI

Round

05

qualify



パワー不足に苦しみ予選25位に沈む 長距離レースで起死回生を狙う



真夏の富士の500マイル！ AUTOBACS SUPER GT 2019 シリーズ第5戦は、富士スピードウェイでシーズン最長となる約800kmで争われます。通常の300kmに対して約2.7倍の距離で、最低でも4度のピットイン&ドライバー交代が義務づけられています。暑く長いハードなレースだけに3人目のドライバーを用意しているチームも少なくありません。K-tunes Racingは、新田守男選手と阪口晴南選手の2人でレースを戦います。

5月の富士では、ライバルたちのパワフルなターボエンジンに押され、ラップタイムに苦しみました。マシンの性能調整によって全てのマシンに競争力を与えるのがSUPER GTのレギュレーションですが、LEXUS RC F GT3はライバルに対してパワーを強く抑えられています。これは優れたコーナリング性能を持っている、という証明でもありますが、エンジンパワーがモノを言う富士のようなサーキットでは不利です。

今回は60kgのウェイトハンデが与えられ、第2戦の時よりも、さらに厳しい状況になっています。事実、土曜日の午前





中に行われたプラクティスのベストタイムは新田守男選手の1分39秒698で、トップから1秒557遅れの22位。Q2進出となる16位まで0秒493差で、これはとても大きな差です。

さらに予選が行われる午後には、さらに気温も上昇し、エンジンパワーが失われることが予想されました。

予選Q1、阪口晴南選手が担当しました。タイミングを慎重に見極めて、コースイン。ニュータイヤをしっかりと暖めてタイムアタックに向かいます。しかしタイムは1分39秒126。午前中のプラクティスのタイムは上回りましたが、結果は25位。ライバルたちはさらにタイムアップしていたのです。

大変残念なことに、去年のチーム参戦以来、25位というのは最も悪い予選結果となりました。しかし、決勝レースは500マイルのロングレース。ゴールまで4時間を超え、4度のドライバー交代、160周を超える周回数の中で、K-tunes Racingは最高の結果を得るために、チャレンジします。

2019 AUTOBACS SUPER GT Round5 FUJI GT 500mile RACE
 富士スピードウェイ 2019年8月3日 天候：晴れ 路面：Dry
qualify

Po	No	Machine	Driver	Q1	Q2	Tire	WH
1	52	埼玉トヨペットGB マークX MC TOYOTA MARK X MC / GTA V8	脇阪 薫一 吉田 広樹	1'38.569	1'37.316	BS	11
2	25	HOPPY 86 MC TOYOTA 86 MC / GTA V8	松井 孝允 佐藤 公哉 土屋 武士	1'37.912	1'37.394	YH	32
3	360	RUNUP RIVAUX GT-R NISSAN GT-R NISMO GT3 / VR38DETT	青木 孝行 田中 篤 柴田 優作	1'37.534	1'37.454	YH	
4	61	SUBARU BRZ R&D SPORT SUBARU BRZ GT300 / EJ20	井口 卓人 山内 英輝	1'38.194	1'37.652	DL	30
25	96	K-tunes RC F GT3 LEXUS RC F GT3 / 2UR-GSE	新田 守男 阪口 晴南	1'39.126	-----	BS	60

監督・選手コメント



Team Director
影山正彦

©GTA

予想してはいましたが、予選は厳しいものになりました。ただレースは長いので、戦略的にも幅がありますし、天気や運など、いろいろなものを味方にして、いい結果を残したいと思います。



Driver
阪口晴南

©GTA

特にミスすることもなくアタックできて、マシンのパフォーマンスは引き出せたと思います。それでも予選結果は厳しいものになりました。決勝レースはいつもより長いので、入賞を狙って走ります。

